

適切な遮光でトルコギキョウの切り花品質向上！

【要旨】秋出しトルコギキョウ栽培において、遮光率(照度換算)40-45%で遮熱性が高い遮光資材を定植前から発蕾時期頃まで外張り(以下、外部遮光)することで、商品性の高い切り花が生産できました。 #トルコギキョウ #秋だし栽培 #遮光

本県でのトルコギキョウの主力作型に、6月下旬から7月中旬に定植し、9月中旬以降に出荷する秋出し栽培があります。年間で最も高温時期に栽培するため近年の夏季異常高温の影響を受けやすく、ボリュームのある切り花が得られないなどの問題が発生しています。そこで遮光資材を用いた対策試験を実施しました。

【研究の成果】

遮熱性が高い素材で作られた遮光資材(商品名:スリムホワイト60)を定植前から外部遮光し(写真1)、栽培環境と生育を調査しました。

その結果、外部遮光により、無遮光と比べて照度は平均で約45%低下し、気温、地温とも平均で約1℃低下しました。そして、晴天時には日最高気温が最大で約4℃低下しました。

遮光期間を検討したところ、収穫日数に差はありませんでしたが、遮光期間の長い区(発蕾時期+1週間後に遮光除去)で切り花長、切り花重、有効枝数、いずれも最も増加しました。一方で、品種によっては遮光期間が長いと茎が柔らかくなりました(表1)。

これらのことから、秋出しトルコギキョウ栽培において定植前からの外部遮光は、概ね最初の花の蕾が見える頃(発蕾時期)までとすることで、多くの品種で茎の硬さを確保しつつボリュームのある、商品性の高い切り花(写真2)が生産できる結果が得られました。

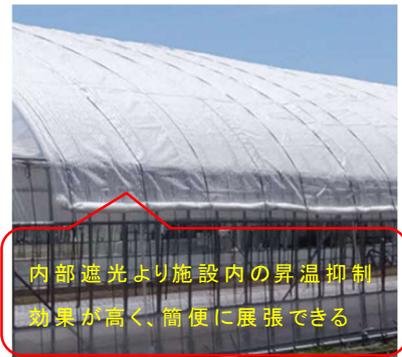


写真1 外部遮光

表1 外部遮光が収穫日数や切り花品質に及ぼす影響(4品種^z平均)

処理区	収穫日数 (日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	有効 枝数 ^y	茎の硬さ ^x	
					4品種 平均	セレブ RW
発蕾時期に 遮光除去	72.0	65.1	71.1	3.5	2.8	2.2
発蕾時期+1週間後 に遮光除去	72.6	69.9	76.7	3.5	2.6	1.6
無遮光(対照)	70.6	56.0	61.0	3.0	2.9	2.7

^z) SO八雲コーラル、エレスライトピンク、セレブリッチホワイト、ハピネスホワイト

^y) 花と蕾のついた枝の数

^x) 茎の硬さを3段階で評価 3:硬い 2:適度にしなる(出荷可) 1:柔らかい(出荷不可)



写真2 各区の切り花

【重点推進事項】中核的な担い手の確保・育成

【問い合わせ先】栽培研究部特産園芸科

【E-mail】 nougi@pref.shimane.lg.jp